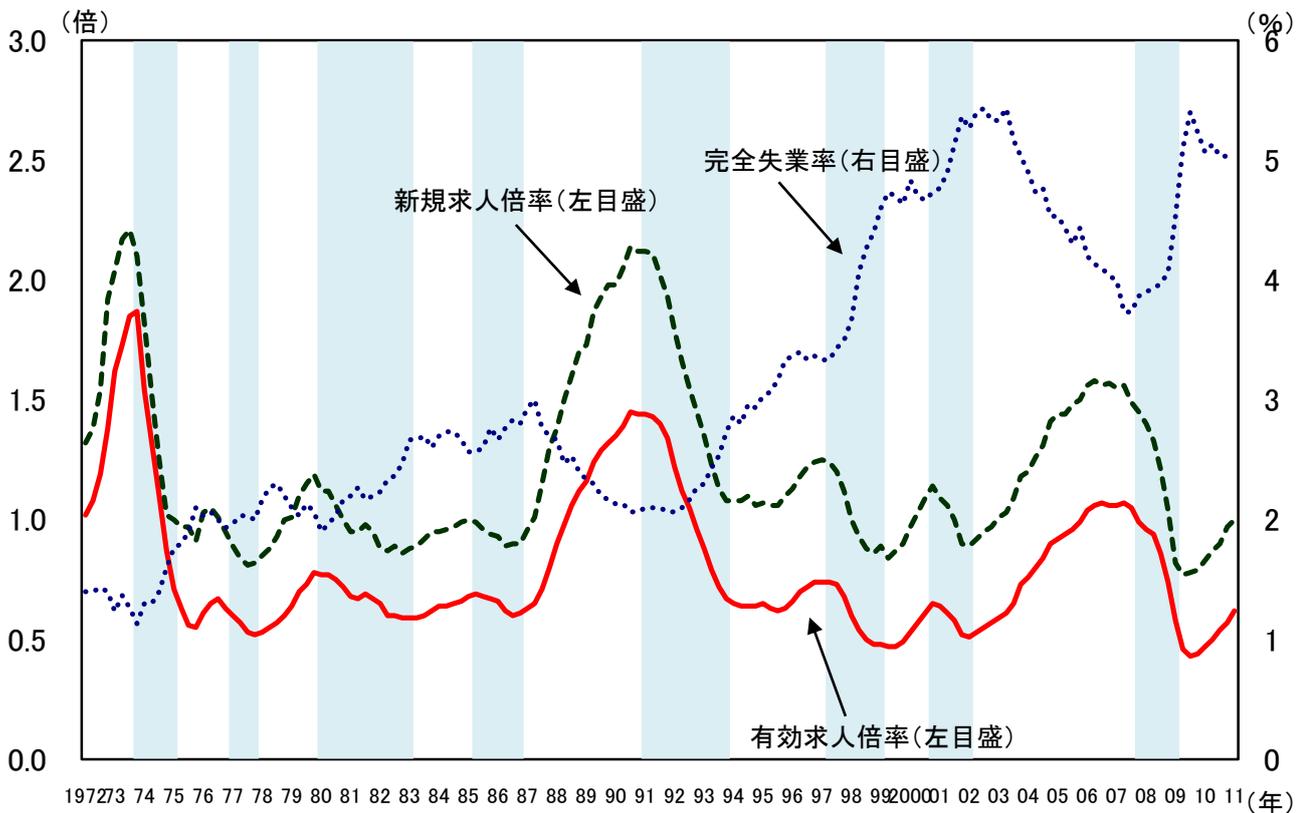


雇用情勢の推移



資料出所 厚生労働省「職業安定業務統計」、総務省統計局「労働力調査」

- (注) 1) データは四半期平均値(季節調整値)。また、グラフのシャド一部分は景気後退期
(ただし、2007年10月を景気の山とし、2009年3月を景気の谷とする景気後退期は暫定)。
2) 有効求人倍率及び新規求人倍率については、1973年から沖縄を含む。
3) 完全失業率については、1972年7月から沖縄を含む。
4) 有効求人倍率及び新規求人倍率については、新規学卒者を除きパートタイムを含む。
5) 完全失業率の四半期値は、月次の季節調整値を単純平均したもの。

(持ち直しの動きがみられた2010年の雇用指標)

- 景気は2002年以来、長期の拡張を続けてきたが、2007年に踊り場的な状況を迎え、2008年秋に発生したアメリカを中心とした金融危機によって、世界経済の減速が始まると、拡張の牽引力を外需に依存し続けていたが故に、他の国々にまして大きな経済収縮に直面することに。
- こうした大きな経済危機を克服するため、経済対策が矢継ぎ早に発動されたが、2009年には輸出と生産が持ち直し、個人消費にも経済対策の効果が表れるなど、景気は自律性は弱いながらも持ち直してきた。
- 雇用情勢についてみると、2008年秋以降の急速な悪化の中で、有効求人倍率は2009年7月に0.43倍と過去最低の水準に落ち込み、2009年末になってようやく緩やかに上昇を始めた。また、完全失業率は2009年7月に5.5%まで上昇した後、緩やかに低下し、2010年末に5%台を下回った。